



# 兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2015 **2**



1月10日(土)、兵庫県民会館(神戸市中央区)にて、「第10回新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催し会員生協・団体の役職員44名が参加しました。消費生活に関する行動をふりかえりながら、「消費者市民社会」の実現について学びました。また、賀詞交換会では行政と会員生協のみなさまが交流を深めながら、新年への決意を新たにする機会となりました。(関連記事 P.3)



尼崎医療生活協同組合 専務理事  
兵庫県生活協同組合連合会 理事

福島 哲  
(ふくしま・さとし)

## 尼崎医療生協の 体質とその背景

医療福祉生協連の前会長の高橋先生に「医療生協では全国初の無料低額診療事業、東日本大震災被災地への支援活動では牽引車として活躍。尼崎医療生協はどうしてそんなにがんばれるの?」と聞かれたことがあります。「アドレナリンが出やすいトップの体質かな」と思ったりもしていますが、尼崎医療生協の歴史をふり返ると、保育所も診療所も特養も「必要なものは行政に要求もするが、住民自らの手で作ってしまう」というエネルギーシユな市民体質が背景にあるような気がします。

ある先輩からはレッドパージを受けた人々が地域でもう一度立ち上がった、それが尼崎の特徴という話

も聞きました。戦後間もない時期に西大島に住まわれていた作家の田辺聖子さんは『ほっこりぼくぼく上方さんぽ』という著書で、当時の尼崎を「殺伐、猥雑、しかし人間的な地熱を感じる街」と表現されています。この人間的な地熱こそが尼崎医療生協そのものではないかと思えます。これからも果敢にチャレンジし続ける組織であり続けたいと思います。



### CONTENTS

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>2. 想点</li> <li>3. 新春トップセミナー・賀詞交換会 報告／第10回初級経理学校 報告</li> <li>4. 阪神・淡路大震災20年「ひょうご安全の日のつどい」報告 生活協同組合コープこうべ／ろっこう医療生活協同組合</li> <li>5. 単協通信 甲南大学生生活協同組合／近畿労働金庫兵庫地区統括本部</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>6. 協同組合のかけ橋</li> <li>7. 兵庫県のページ</li> <li>8. 「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会のご案内／「ひょうご消費者セミナー2014」のご案内 県連日誌／編集後記</li> </ul> |
|--|--|

# 消費者市民社会の実現へ

## ～新春トップセミナー・賀詞交換会を開催～

1月10日(土)、兵庫県民会館にて10回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催し、兵庫県から4名の方々をお迎えしました。また、会員生協の理事長・理事・監事、共栄火災海上保険株式会社をはじめ、44名の方々にご参加いただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

新春トップセミナーでは、本田英一 会長理事の開会挨拶に続き、兵庫県企画県民部県民生活局長 柳瀬厚子 様よりご挨拶をいただきました。

その後、公益財団法人消費者教育支援センター 総括主任研究員 柿野 成美 様を講師に迎え「消費者市民社会」の実現に向けて～生活協同組合への期待について」と題して、消費者教育推進法の基本理念や消費者教育体系、不当表示に惑わされない消費者としてのあり方などについてご講演いただきました。

発展途上国で作られた作物や製品を買い支えていくことで生産者の持続的な生活向上を支える仕組みの「フェアトレード」。大学生や若い世代が企業などに呼び掛け、その認知度を高めていく活動がすすめられています。

「消費者の行動が社会を変える」「消費生活に関する知識だけではなく、行動に移せる実践的能力を身につけることが大切です」と結ばれ、会場では熱心に聴き入る参加者の姿が見られました。

その後、開催された賀詞交換会には、兵庫県の消費者行政のご担当の方々にもご参加いただき、本田英一 会長理事の挨拶に続き、ご来賓を代表して兵庫県副知事 金澤和夫 様のご挨拶と乾杯のご発声で賑やかに会がスタート。トップセミナー講師の柿野様をはじめ、日頃からお世話になっている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞交換を通じて交流を深めました。



賀詞交換会にて挨拶される  
金澤和夫 兵庫県副知事



講演される  
柿野 成美 氏



挨拶される兵庫県  
柳瀬 厚子 局長

# 経理の初歩を学び全員が課程を修了

## ～「第10回初級経理学校」を開催～

会員生協の経理担当者の人材育成をめざして生協の経理実務を基礎から学ぶことを目的に行われている兵協連主催の経理学校は、今年10回目を迎えました。今回もMM コンサルティング・三宅充氏を講師に迎え1月14日(水)～15日(木)、1月20日(火)～22日(木)延べ5日間の講義に、会員生協と関連会社あわせて14名が受講しました。



熱心に演習問題に取り組みました



全員で修了証書を受け取りました

5日間にわたる講義では、日本生協連発行『入門 生協の経理実務～伝票式会計』をテキストに、生協簿記を基礎知識から学びました。取引や仕訳の仕組みを理解し、最終的には決算書類である貸借対照表・損益計算書の作成が出来るようになることが目標です。

実際に仕訳伝票を使用しながら演習問題などを繰り返し、時間をかけて丁寧に進められました。最終日には、講師の三宅 充 氏から「第10回初級経理学校修了証」が受講者一人ひとりに手渡され、拍手のなか、全員が無事に修了証書を受け取りました。

受講者からは、「ハードルが高いと感じていたB/S、P/Lを作成することで身近になり、事業報告書を開いてみようと思いました」「練習問題を増やして、学んだことが確実に定着する時間があると良い」「最初は、できるかどうか不安でしたが、隣の方と相談して協力しながら練習問題ができ、少し自信もつきました」などの感想が寄せられ、5日間の研修を終えて経理実務の第一歩を刻みました。



講師 三宅 充 氏

## 経験と教訓を次代へ語り継ぎ、災害に備える力を

～兵庫JCCが「ひょうご安全の日のつどい」に参加～

1月17日(土)、兵庫県内の生協、農協、漁協、森林組合の4つの協同組合で組織する兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は、阪神・淡路大震災の経験と教訓を広く発信する「ひょうご安全の日のつどい」(HAT神戸・神戸市中央区)に参加しました。

この事業は、兵庫県内の130団体・個人で構成する「ひょうご安全の日推進県民会議」が主催。阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼し、教訓を忘れることなく「伝える」「備える」「活かす」ことで、「1.17」を語り継ぐことを目的に実施されています。

追悼式典やメモリアルウォークをはじめ企業や行政などの各ブースでは、展示や防災・減災のための体験コーナーなど、来場者が災害への高い関心を持って取り組む姿が見られました。また、兵庫JCCではJF(漁協)の「海鮮汁」、JAグループ兵庫の「塩おにぎり」の500食の炊き出しを行い、早くから行列ができるほど好評でした。さらに協同組合が地域社会で果たす役割についてのパネル展示やパンフレットを手渡し、兵庫JCCの活動をPRしました。にわか雨の降るなか、来場者からは「おにぎりも温かいし、海鮮汁も嬉しい」「震災の頃を思い出します」など、次の災害に備える意識を新たにしました。



温かい海鮮汁の炊き出しを行いました



当時の写真・想いをパネル展示し、防災・減災標語コンテストをPR。(全労済兵庫県本部)

### 生活協同組合コープこうべ



若手職員が「震災体験継承プロジェクト」を通して次代へ語り継ぐ

1月16日(金)、神戸国際会議場にて「みんなでつくる、これからの地域と暮らし」をテーマに「つながろうco-opアクション交流会」が行われました。全国の生協職員、コープこうべ職員・組合員、合わせて426人がつどい、大災害を経て顕在化した地域の課題と、その解決に向けて生協が果たす役割について話し合う場となりました。

交流会に先立ち行われた「阪神・淡路大震災から20年のつどい」では、犠牲になられた方への黙祷の後、5人の若手職員が「震災体験継承プロジェクト」を通してたどり着いた今の思いを「誓いの言葉」として発表。「これで終わりではありません。もっと語り合ひましょう」と力強く呼びかけました。これからも全国の生協の仲間が手をつなぎ合い、復興にむけて東北への支援を継続していくことを誓い、締めくくられました。

(通信員 榊原 晶子)

### ろっこう医療生活協同組合

「阪神淡路大震災20年の集い」と銘打って、震災の被災体験を語り継ぎ、これまでの歩みを振り返る集いを1月17日、灘区民ホールで開催しました。当日は小雪が舞う中にもかかわらず、約500人が参加し会場は満席となりました。

「今想うこと」を組合員・職員3人が発言、藤田佳代舞踊研究所の皆さんがモダンダンス「届ける」を披露。また、岩手県三陸鉄道と福島県さきり健康生協の職員から東日本大震災の被災地の実情が報告されました。

ロビーでは、絵画教室のアトリエ太陽の子の防災をテーマとした作品や、震災当時の写真などが展示され、多くの参加者や市民が見入っていました。(通信員 古市 賢二)



フィナーレは「しあわせ運べるように」をみんなで合唱

### 「漁協との交流会」を開催しました

12月20日に、兵庫県水産会館で摂津播磨地区漁協青壮年部連合会と甲南大学生協が協力して交流会を開催しました。甲南大学生協学生会委員会「SPICE」が中心となり、甲南大学・神戸薬科大学・甲南女子大学3校の学生に呼びかけ、各生協職員も参加しました。漁師さんの指導を受けながら、魚料理の実習をしました。初めて魚を料理した学生も真剣に取り組み、各大学生協食堂スタッフ



漁師さんと一緒に「赤シタピラメ」調理中

フも学生と一緒に新鮮な魚の調理を楽しみました。参加者全員美味しい魚料理頂きながら漁業と環境についても教えて頂きました。山や川から流れる窒素やリンが豊かな海を作り、美味しい魚を育てることを知りました。そしてその為には植樹等で山を守ることも大切だということ学びました。

おいしい魚を食べて頂くために、生協でも魚料理の食を増やし、バラエティー豊かなメニューで組合員の皆さまに喜んで頂けるように努めていきたいと思えます。

(通信員 中谷満子)



ウロコ取りに挑戦!

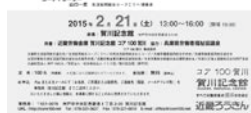
### 「阪神・淡路大震災20年、これからの協同組合の役割」シンポジウムを開催します

未曾有の災害といわれた阪神・淡路大震災。あの日からの20年間を振り返ると共に「協同組合のこれから」を考えるシンポジウムを開催します。

さらなる取組みを促進しています。震災復興・支援の取組みや、これからの協同組合の役割などに関心をお持ちの皆さまのご参加をお待ちしております。

(通信員 井奥真貴子)

大震災の発生した1995年はボランティア元年とも呼ばれ、市民活動は活発になり、協同組合も様々な面から地域社会における役割を発揮してきました。また、2012国際協同組合年を経て、ICAは「2020年ビジョン」として2020年までに協同組合が達成すべき目標を定め、



**日時:** 2015年2月21日(土)  
13:00~16:00(開場12:30)  
**会場:** 賀川記念館  
(神戸市中央区吾妻通5-2-20)  
**参加費:** 無料(要申込・定員になり次第締め切らせていただきます)  
**プログラム**  
■基調講演: 小森 星児氏  
神戸商科大学 名誉教授・神戸復興塾 塾長  
「阪神・淡路大震災の教訓を未来にいかす〜協同組合への期待〜」  
■パネルディスカッション  
震災支援、地域づくりや防災活動の事例報告、協同組合による社会づくりや協同組合間協同についてディスカッションします。  
**【パネリスト】**  
柳瀬 啓子 (生活協同組合コープこうべ元理事、賀川記念館語り部)  
池田 啓一 (NPO法人都市生活コミュニティセンター理事)  
橋谷 世子 (美しい街岡本協議会 会長、ハンドインハンド社長)  
浦田 和久 (近畿ろうきん地域共生推進部 部長)  
**【コーディネーター】**  
山口一史 (生活協同組合コープこうべ 理事長)  
**お申込み**  
FAX、またはEメールにて事務局(賀川記念館)まで「お名前・ご所属または勤務先・ご連絡先(電話・メールアドレス等)」をお送りください。  
**事務局:** 賀川記念館  
TEL: 078-221-3627 FAX: 078-221-0810  
URL: <http://core100.net>  
Eメール: [office@core100.net](mailto:office@core100.net)  
**共催:** 近畿労働金庫、賀川記念館、コア100賀川  
**協力:** 兵庫県労働者福祉協議会

# 協同組合のかけ橋

## JF (一財) 兵庫県水産振興基金

### 近畿山陰地区プライドフィッシュ PR試食会が開催される ～5府県から“漁師自慢の魚”が勢ぞろい～

JF全漁連(岸宏会長)は、「プライドフィッシュプロジェクト」を今年6月から始め、各地でイベントを行うなど好評を博しています。このプロジェクトは、消費者に本当の魚の美味しさを



知ってもらいたいと、各都道府県のJFグループが自信をもって勧める漁師自慢の魚を季節ごとに選定し、美味しさや旬などの情報を発信する

とともに、食べてもらうことで、美味しい魚を食べた時の感動を提供するものです。12月4日(休)には兵庫県水産会館で、報道関係者や行政、JF関係者ら約80名を集めての「近畿山陰地区プライドフィッシュPR試食会」が開催され、大阪・兵庫・鳥取・島根・岡山の5府県のJFが、自慢の料理を振舞い、それぞれPRをおこないました。兵庫からは「蒸し牡蠣」と「牡蠣の磯辺揚げ」が提供され、まずJF兵庫漁連山田隆義会長が「播磨灘のカキは、川からの豊富な栄養が流れ込むことで、通常2～3年かかるところ1年で出荷サイズまで成長する。この美味しさを知ってもらいたい」と述べたのち、生産地のJF赤穂市大河優組合長が、カキの説明と料理のPRを行いました。試食会では、兵庫のカキのほか、大阪のサワラ・マダコ、鳥取のハタハタ・ズワイガニ、島根のノドグロ、岡山のゲタ(シタビラメ)の料理が並べられ、どの料理もとても好評でした。



試食会の様子

なお、JF全漁連では、季節ごとに登録された全国のプライドフィッシュや、プライドフィッシュが買える店、食べられる店などを紹介するホームページを開設しています。(URL: <http://www.pride-fish.jp>)

## JA 兵庫県 JA 女性組織連絡会

### 地域を越えた交流で広める仲間の輪 ～兵庫県 JA 女性組織活動交流会を開催～

兵庫県JA女性組織連絡会は、昨年11月28日、たつの市の赤とんぼ文化ホールで、「兵庫県JA女性組織活動交流会～つながる仲間 広める笑顔～」を開催しました。県内9JAから女性組織メンバー等259人が参加し、日頃のグループ活動の成果を発表しました。

交流会は、県内JA女性組織の会員同士の交流と組織活動の活性化を目的としたもので、今回が2年ぶり3回目の開催。各JA女性会の声を踏まえ、従来の舞台発表に加え、新たに展示発表と加工品・作品販売に取り組み、より多彩な活動を披露できるよう、規模を拡大しました。

舞台発表では、詐欺被害防止の寸劇や地域の伝承を基にした紙芝居等、くらしに根ざした女性会ならではの活動や、コーラス・踊り・ファッションショーといった華やかな活動を発表しました。また、展示発表では、パッチワークやカービング等の女性らしい繊細な作品が並びました。加工品・作品販売では、地域の特産物を使った加工品や手芸作品等が好評でした。

交流会の最後には、参加者全員で総踊りを行い、地域を越えた交流を深めあいました。参加者からは「女性会の仲間と良い交流ができました。他組織の活動を自分たちの地域に持ち帰り実践してみたいです」等の声が聞かれました。

兵庫県JA女性組織連絡会では、交流会の開催等を通じて、各JA女性組織の活動活性化を図るとともに、日々のくらしや地域社会を豊かにするJA女性組織の仲間づくりにつなげていくことを目指しています。



グループ活動を発表する参加者



米粉を使った加工品を販売



最近の消費生活相談事例

## 公的機関をかたった“個人情報 の削除”の電話にご用心

### 事例

「県消費者センター」のような名称で「あなたの個人情報が流出し、3社に登録されている。ネット会社と食品会社ともう1社。削除してあげる」と電話があり、依頼した。再度電話があり、「2社は削除できたが、1社は削除できない」と言うので不審に思い、電話を切った。何日か前に、増税に関するアンケートの電話があり、年齢、家族構成、貯蓄が1000万円以上あるかなど聞かれ、「75歳で一人暮らし」などと答えたことと繋がっているようで不安だ。

### 【アドバイス】

「公的機関から個人情報を削除する、という電話があったが本当か」という相談が相次いで寄せられています。

消費者センターなど公的機関を思わせるような名称をかたったり、県や市町職員を名乗って電話が入り、「あなたの個人情報が漏れているので、無料で削除してあげる」と持ちかけられ、やりとりをしていると、最終的にはお金を要求されるという内容です。

事例のように電話によるアンケート調査で資産などを聞き出され、後日、個人情報削除の電話が入ったケースもみられます。

公的機関が「個人情報を削除してあげる」と電話をすることはありません。個人情報の削除やアンケートと称して資産、家族構成を聞き出す電話は、相手にせず、すぐに電話を切ってください。

一度電話に出ると切りにくく、最後まで話を聞いてしまうことになります。そこで、普段から留守番電話機能を利用して、かかってきた電話には出ず、必要に応じて後でかけ直す方法が有効です。また、発信者番号表示機能のある電話を使用している場合には、番号非通知や知らない番号からの電話には出ないという方法もあります。少しでも疑問や不安を感じた場合には、すぐに、お近くの消費生活相談窓口にご相談ください。

(兵庫県生活科学総合センター)

# MOVE

## 2014年度『兵協連だより』通信員・広報担当者 研修会

●日時：3月17日(火) 10時00分～12時00分

●場所：神戸新聞社 ハーバーランド本社 (神戸市中央区東川崎町1-5-7 ☆最寄駅・JR 神戸駅)

お申し込みは  
先着順 20名

### I 編集現場の見学

①編集局 ②情報技術局 ③講義：講師・神戸新聞 記者 OB

(効果的な新聞づくりや取材のポイントなど) ※一部内容が変更になる場合があります

### II 報道展示室「ニュースポート」見学

「阪神・淡路大震災発生から1週間の神戸新聞社とサンテレビ、ラジオ関西の報道の取り組みの展示資料の説明」

阪神・淡路大震災から20年。今回の研修会は、地域と共に歩む新聞社として、震災経験を原点とする「神戸新聞社」の防災報道の取り組みや広報実務について学びます。

●対象者：会員生協『兵協連だより』通信員および広報担当者

お申し込み・お問い合わせ：兵庫県生活協同組合連合会 (担当：中尾) TEL：078-391-8634

## 2014年度ひょうご消費者セミナー

### 「正しく知ろうよ！健康食品～かしこい消費者になるために～」

消費者セミナーの7回目を迎える今回は、健康食品を正しく知ることテーマに活動報告、寸劇、学習会を行います。健康食品(サプリメント)は本当に効くのか？薬の代わりになるのか？値段と品質・効果の関係は？薬と一緒に飲んで大丈夫？などなど、しっかり理解してかしこい消費者になりましょう。また、適格消費者団体からは、これまでに取り組んだ事例や新しい制度(集団的消費者被害救済制度)について報告します。

◆とき：3月19日(木) 午後1時～3時30分

◆ところ：兵庫県民会館11Fパルテホール

神戸市中央区下山手通4-16-3

(JR・阪神 元町駅より徒歩7分、地下鉄県庁前すぐ)

◆内容：〈活動報告〉☆NPO法人 消費者支援機構関西(KC's)

☆NPO法人 ひょうご消費者ネット

〈寸劇〉健康食品消費者被害についての寸劇 アド☆コン座

〈講演〉「正しく知ろうよ！健康食品～かしこい消費者になるために～」

松浦 寿喜氏(武庫川女子大学生生活環境学部教授)

和歌山県出身。元大塚製菓。1994年から武庫川女子大学生生活環境学部勤務。2006年より同学部教授。専門分野は衛生化学、食品安全学、薬理学。社団法人日本食品化学研究財団評議員など歴任。主な著書として、「健康と食の安全を考えた食品衛生学」アイ・ケイコーポレーションなど。

◆参加費：無料(定員150人。\*兵庫県生協連は20人募集します。お早めにお申し込みください)

◆託児あり(1歳半～未就学児)：無料

◆締切：3月6日(金) ※定員になり次第締め切ります

◆申し込み方法：兵庫県生協連までFAX・電話でお申し込みください(FAX：078-392-2059 電話：078-391-8634)

◆主催：コープこうべ、消費者支援機構関西、ひょうご消費者ネット、兵庫県生活協同組合連合会

◆後援：兵庫県・神戸市



## 県連日誌

2月2日(月) 兵協連 第5回理事会 (県民会館 1201)

2月13日(金) 兵協連 第3回大学生協部会 (大学生協 神戸会館)

2月17日(火)～18日(水) 兵協連 第13回税務・経理講習会 (県民会館 1202他)

2月20日(金) 兵協連 第3回共済生協部会 (県民会館 ばら)

## 編集後記

阪神・淡路大震災から20年。1. 17は各地で震災を語り継ぐ集いが行われました。私たち兵協連は、4つの協同組合で組織する兵庫JCCとして「ひょうご安全の日(つどい)」に参加させていただきました(P4参照)。温かい海鮮汁とともに、JAさんから提供された塩おにぎりと一緒に、来場者一人ひとりに手渡したメッセージ。それによると、1つのおにぎりに使われるご飯はお米2,000粒(50g)。1ヘクタール(100メートル四方)の水田から4,000kgのお米を収穫すると8万個のおにぎりが作れる計算に。でも農業の担い手の高齢化によって、兵庫県内だけでも、この20年間でおにぎり8億個分(1万ヘクタール)の農地が減っているそうです。☆「つどい」の当日、手のひらの上で、まだほんのり温かいおにぎりを受け取られた、みなさんの笑顔。おにぎりに秘められた、いろいろな力が湧いてくるような気がしました。(中尾)

